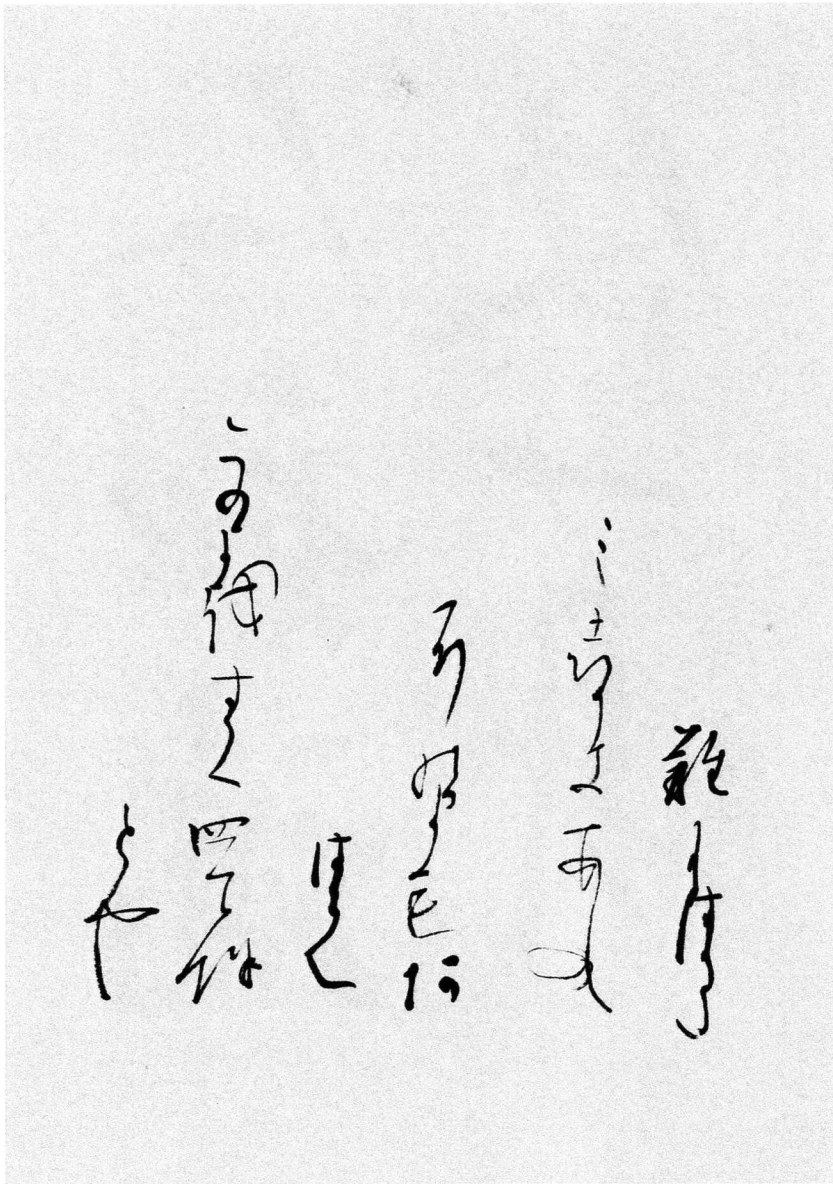


『百人一首』 中村素堂先生の仮名散らし書きの魅力 (六)

難波^{なには}潟^{がた}短^{あし}き蘆^{あし}のふしの間^まも 逢^あはでこの世を過^すぐしてよとや

伊勢^{いせ}



中村素堂先生の書

大島香菊様提供

〈歌意〉

「難波潟の蘆の一節のようにほんの短い時間もあなたに逢わないで、一生を過ごしてしまえと、無情なことをおっしゃるのですか。」この歌は『新古今集』(恋一・一〇四九番)に出ています。

○難波潟 現在の大阪湾の入江。

〈伊勢〉

生没年未詳。『古今和歌集』では小野小町に次ぐ女流歌人。宇多天皇に愛された。

〈字母〉

難 尔 は 可 多
ミ 志 可 支 あ し
の

不 し 能 ま 毛 阿

は 氏

こ の よ 越 す く 四 て 餘
と や

この歌は、下を揃えて高さは同じにならないように書く「木立(こだち)」の書式で書かれています。

(青藍)